

# 京都府の地震活動

令和4年（2022年）11月

第35巻第11号

## 京都地方気象台

### 目次

震央分布図、概況	・・・1
震央分布図、断面図	・・・2
京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度一覧表	・・・3
京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度分布図	・・・4
【地震一口メモ】北海道・三陸沖後発地震注意情報の運用開始について	・・・6

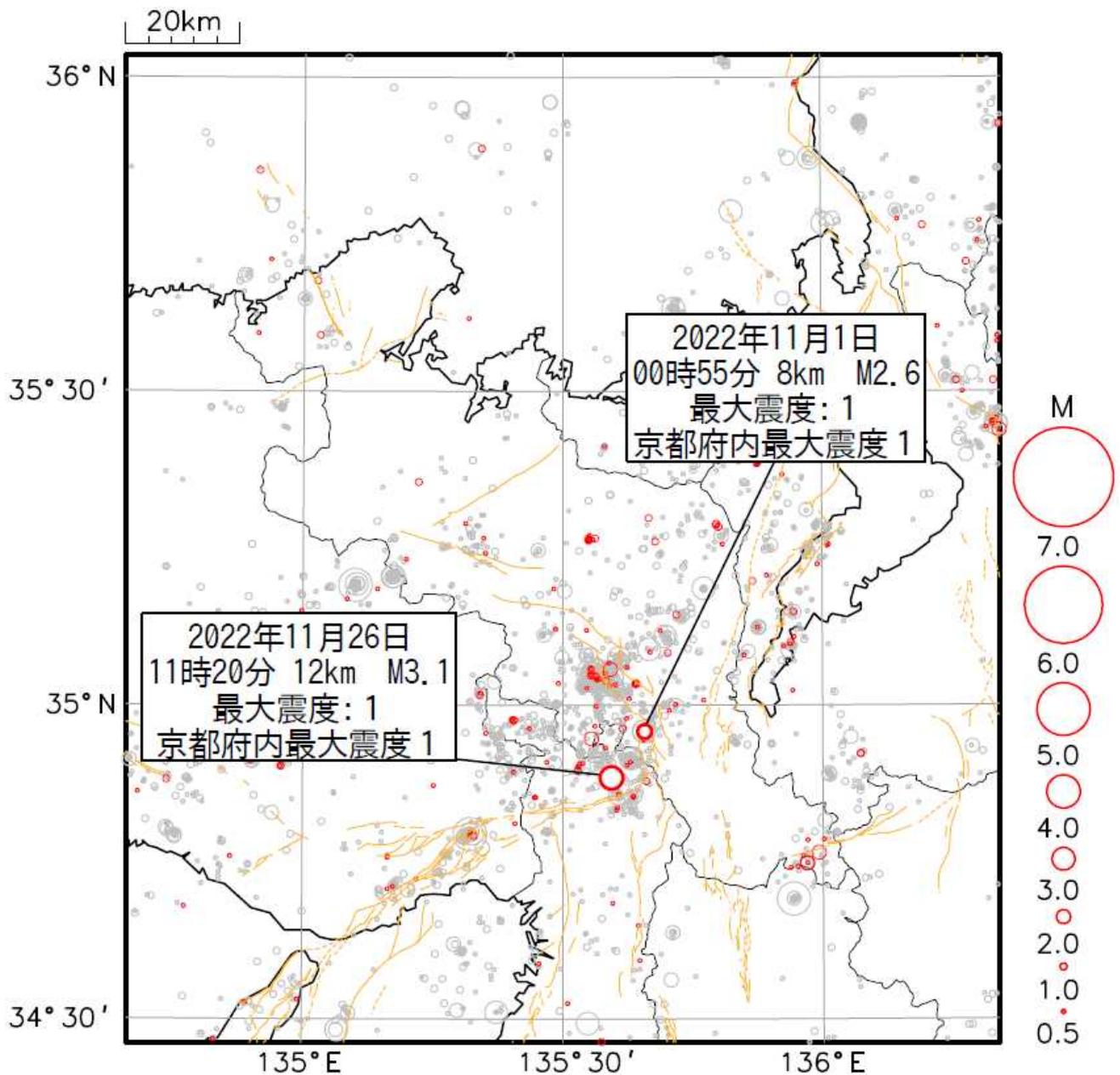
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

## 震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



- ・(2021年12月1日～2022年11月30日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$ )
- ・2022年11月の地震を赤く表示（総数230）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

### 概況

11月中、震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は9回、震度1以上の揺れを観測した地震は2回でした（10月はそれぞれ12回、4回）。

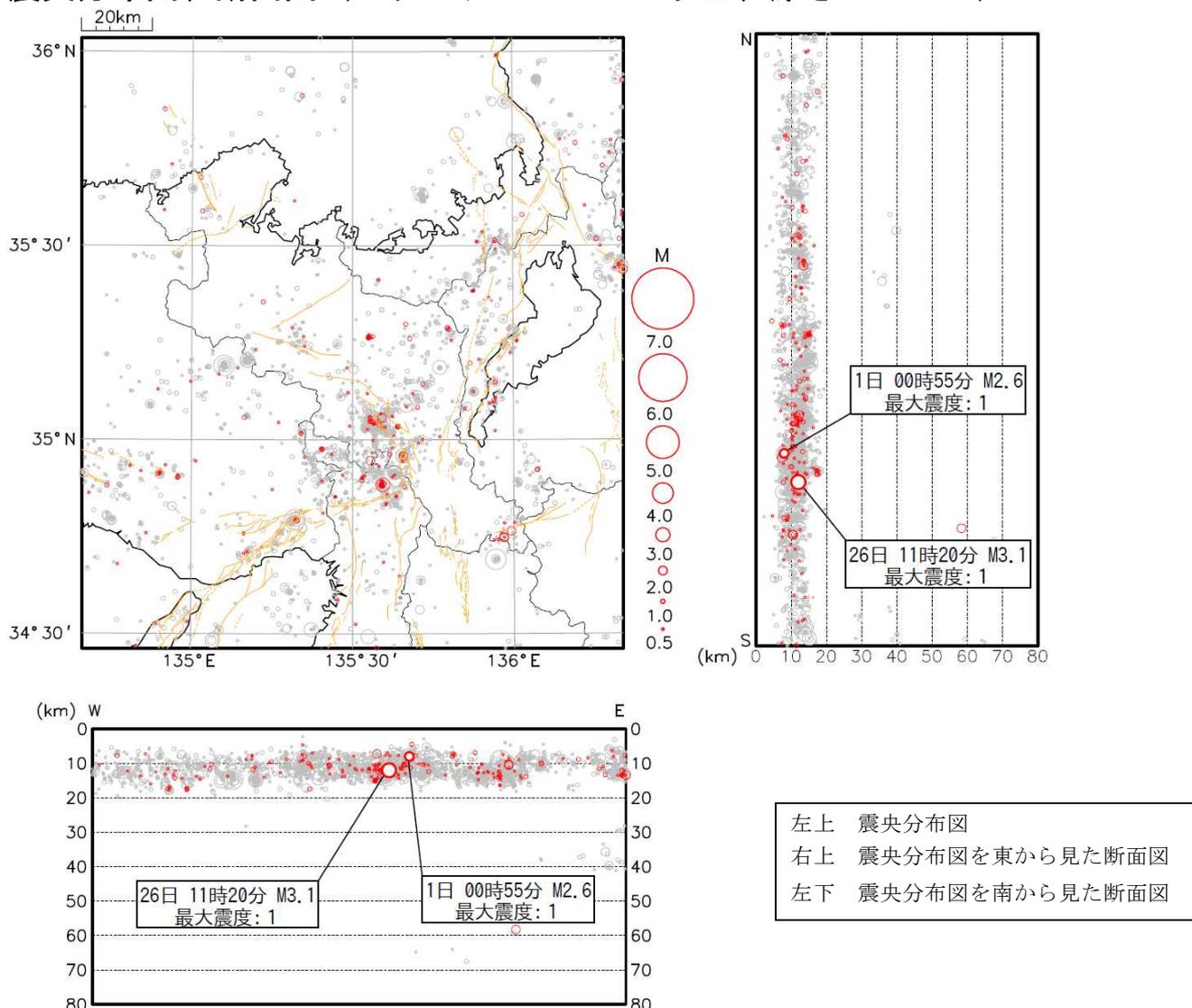
京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震は3回ありました（10月は4回）。

1日00時55分 京都府南部の地震（深さ8km、M2.6）により、京都府京都市西京区、宇治市、亀岡市、久御山町で震度1を観測しました。

20日17時34分 和歌山県南部の地震（図の領域外：深さ53km、M3.9）により、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、大山崎町、井手町、宇治田原町で震度1を観測したほか、三重県、大阪府、奈良県、和歌山県で震度1を観測しました。

26日11時20分 大阪府北部の地震（深さ12km、M3.1）により、京都府京都市西京区、宇治市、亀岡市、城陽市、長岡京市、八幡市、京田辺市、大山崎町、久御山町、井手町、精華町で震度1を観測したほか、大阪府、奈良県で震度1を観測しました。

### 震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



- ・ (2021年12月1日～2022年11月30日、深さ0～80km、M $\geq$ 0.5)
- ・ 2022年11月の地震を赤く表示（総数230）
- ・ 震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・ 震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・ 橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

深さ数km～約20kmに分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約30km～約60kmに分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

### 京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度一覧表（2022年11月）

番号	観測日時		震央地名	北緯 (度分)	東経 (度分)	深さ (km)	規模 (M)
	月日	時分					
①	11月1日	00:55	京都府南部	34° 57.4'	135° 39.4'	8	2.6
②	11月20日	17:34	和歌山県南部	33° 49.3'	135° 39.7'	53	3.9
③	11月26日	11:20	大阪府北部	34° 53.0'	135° 35.6'	12	3.1

地域	震度観測点	所属	各地の震度		
			①	②	③
北 部	福知山市内記	気	-	-	-
	福知山市長田野町	防	-	-	-
	福知山市三和町千束	自	-	-	-
	福知山市夜久野町額田	自	-	-	-
	福知山市大江町河守	自	-	-	-
	舞鶴市下福井	気	-	-	-
	舞鶴市浜	防	-	-	-
	舞鶴市北吸	自	-	-	-
	綾部市若竹町	自	-	-	-
	宮津市柳縄手	自	-	-	-
	伊根町亀島	防	-	-	-
	伊根町日出	自	-	-	-
	京丹後市弥栄町吉沢	気	-	-	-
	京丹後市久美浜町広瀬	防	-	-	-
	京丹後市峰山町	自	-	-	-
	京丹後市大宮町	自	-	-	-
	京丹後市網野町	自	-	-	-
	京丹後市丹後町	自	-	-	-
	京丹後市弥栄町溝谷	自	-	-	-
	京丹後市久美浜市民局	自	-	-	-
南 部	与謝野町加悦	自	-	-	-
	与謝野町岩滝	自	-	-	-
	与謝野町四辻	自	-	-	-
	京都北区大宮西脇台町	自	-	-	-
	京都北区中川※	自	-	-	-
	京都上京区藪ノ内町	自	-	-	-
	京都上京区今出川御前※	自	-	-	-
	京都左京区広河原能見町	防	-	-	-
	京都左京区田中	自	-	-	-
	京都左京区鞍馬※	自	-	-	-
	京都左京区花脊※	自	-	-	-
	京都左京区岩倉※	自	-	-	-
	京都左京区大原※	自	-	-	-
	京都中京区西ノ京	気	-	-	-
	京都中京区河原町御池	自	-	-	-
	京都東山区清水	自	-	-	-
	京都下京区河原町塩小路	自	-	-	-
	京都南区西九条	自	-	-	-
	京都右京区京北周山町	自	-	-	-
	京都右京区太秦	自	-	-	-

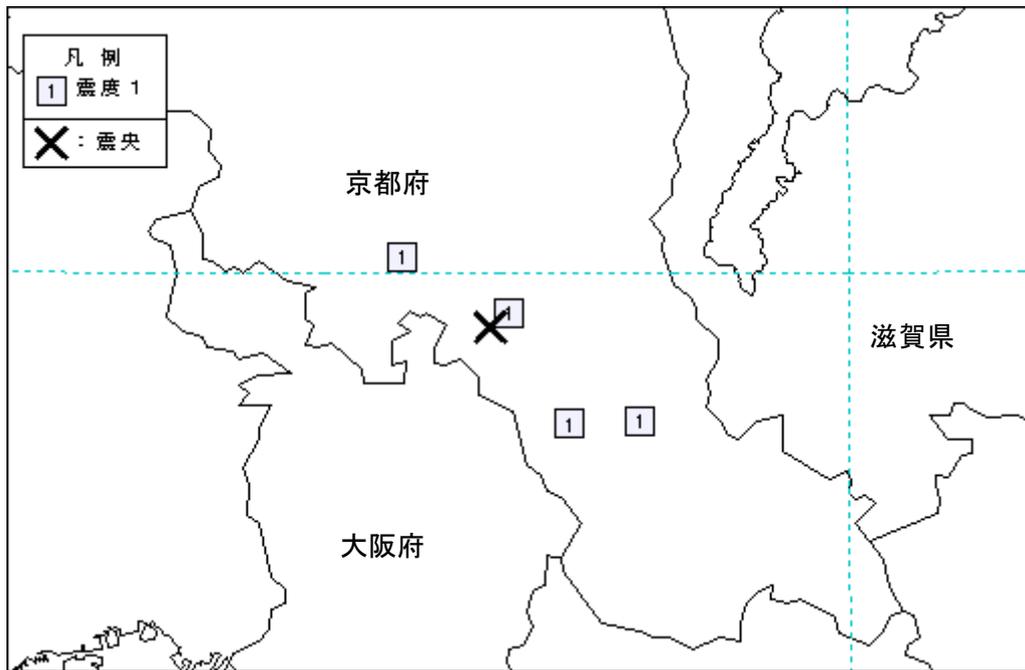
地域	震度観測点	所属	各地の震度		
			①	②	③
南 部	京都右京区嵯峨※	自	-	-	-
	京都右京区嵯峨嵯原※	自	-	-	-
	京都伏見区竹田	自	-	-	-
	京都伏見区醍醐	自	-	-	-
	京都伏見区向島※	自	-	-	-
	京都伏見区淀※	自	-	-	-
	京都伏見区久我※	自	-	-	-
	京都山科区安朱川向町	防	-	-	-
	京都山科区西野	自	-	-	-
	京都西京区櫻原	自	-	-	-
	京都西京区大枝	自	1	-	1
	宇治市宇治琵琶	気	1	-	1
	宇治市折居台	防	-	-	-
	亀岡市安町	気	1	-	1
	亀岡市余部町	防	-	-	1
	城陽市寺田	自	-	1	1
	向日市寺戸町	自	-	-	-
	長岡京市開田	自	-	-	1
	八幡市八幡	自	-	1	1
	大山崎町円明寺	自	-	1	1
	久御山町田井	自	1	-	1
	京田辺市市田	自	-	1	1
	井手町井手	自	-	1	1
	宇治田原町立川	自	-	1	-
	笠置町笠置	自	-	-	-
	和束町釜塚	自	-	-	-
	精華町南稻八妻	自	-	-	1
	南山城村北大河原	自	-	-	-
	京丹波町坂原	気	-	-	-
	京丹波町蒲生	自	-	-	-
	京丹波町橋爪	自	-	-	-
	京丹波町本庄	自	-	-	-
南丹市美山町島	自	-	-	-	
南丹市園部町小桜町	自	-	-	-	
南丹市八木町八木	自	-	-	-	
南丹市日吉町保野田	自	-	-	-	
木津川市山城町上粕	自	-	-	-	
木津川市加茂町里	自	-	1	-	
木津川市木津	自	-	-	-	

注1：所属のうち、「気」は「気象庁」、「防」は「防災科学技術研究所」、「自」は「自治体」を示しています。

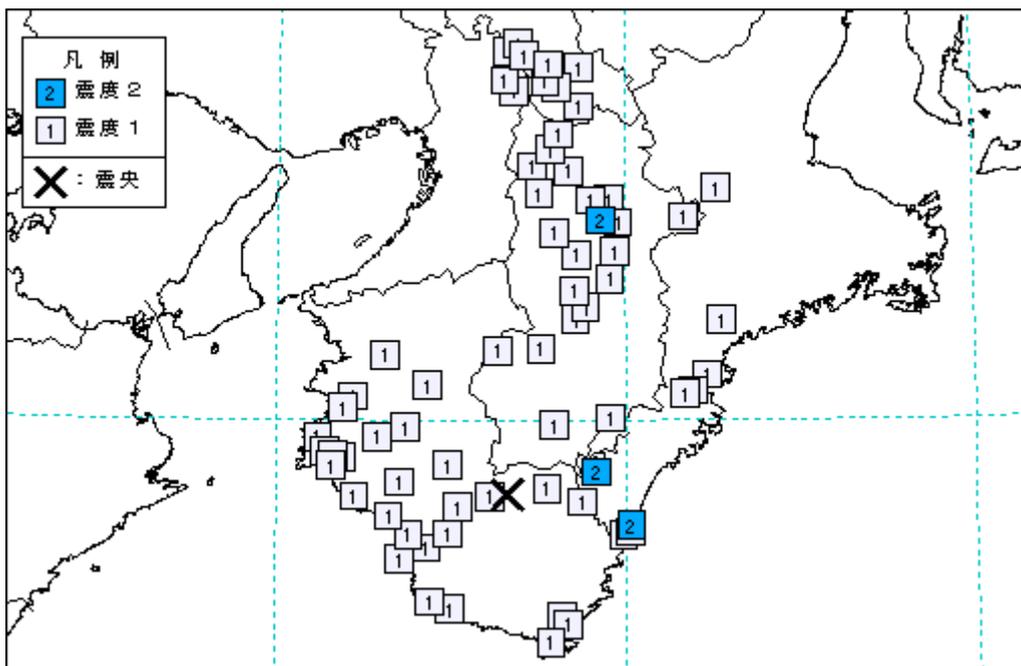
注2：表○数字は、11月に京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震番号を表しています。

※の京都市管理の震度計は、利用を取りやめ廃止しました。

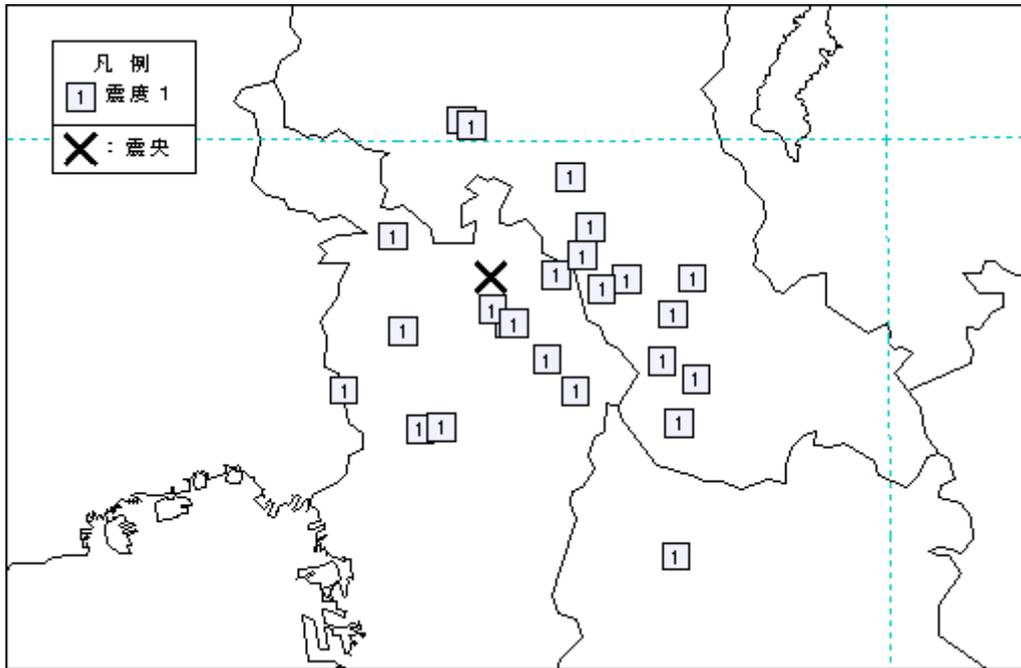
① 11月1日 00時55分 京都府南部の地震 (M2.6、深さ8km) の震度分布図 (観測点別)



② 11月20日 17時34分 和歌山県南部の地震 (M3.9、深さ53km) の震度分布図 (観測点別)



③ 11月26日 11時20分 大阪府北部の地震 (M3.1、深さ12km) の震度分布図 (観測点別)



## 【地震一口メモ】

## 北海道・三陸沖後発地震注意情報の運用開始について

日本海溝・千島海溝沿いでは、過去にマグニチュード（以下、M）の大きな地震が続けて発生した事例があります。直近の事例は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（M9.0）の2日前にM7.3の先発地震が、また1963年10月13日に発生した択捉島南東沖地震（M8.5）の18時間前にもM7.0の先発地震が発生しています（図1）。

中央防災会議防災対策実行会議「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ（以下、WG）」の報告書（令和4年3月）において、当該巨大地震の想定震源域（「三陸・日高沖」及び「十勝・根室沖」の海域）及びその周辺で大きな地震が発生した場合に、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっているとして、気象庁が後発の巨大地震に備えた注意を促す情報を発信し、自治体等が住民に日頃からの備えの再確認等を呼びかけることが有効であるとされました。そこで、地震発生後、特に1週間程度は普段よりも巨大地震の発生に注意し、揺れを感じたり津波警報等が発表されたりした場合に、直ちに津波から避難できる態勢等を確保するよう呼びかける「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表することとしました。運用開始は、令和4年12月16日（金）12時からですが、この情報を発表したとしても後発地震が必ず発生するわけではないなど、極めて不確実性が高い情報のため、性質や内容を正しく理解して、自らの防災行動に活かすことが重要です。また、実際には、巨大地震は、突発的に発生することのほうが多く日頃からの備えが大切です。なお、本情報の防災対応をとるべきエリアは、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定において、震度6弱以上の揺れまたは津波高3m以上が想定（図2）される地域です。京都府は含まれていませんが、津波が到達する可能性もあり、留意が必要です。

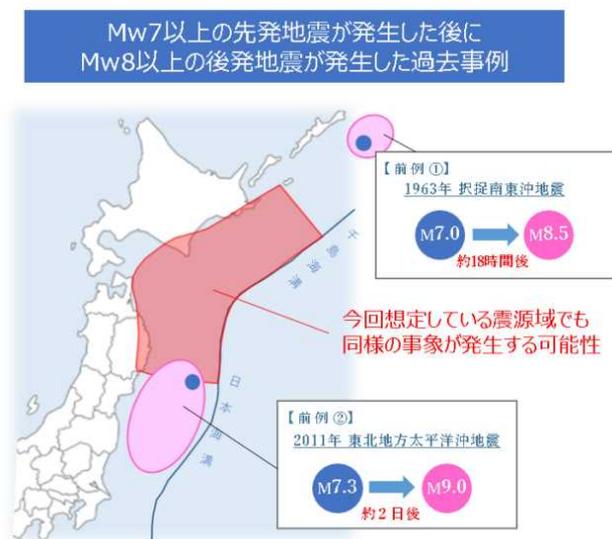


図1 想定震源域と先発地震が発生した後に後発地震が発生した過去事例（WG報告書より）

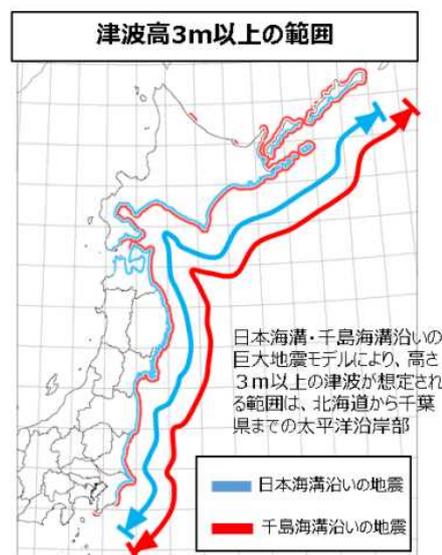


図2 想定される津波高3m以上の範囲（WG報告書より）

気象庁ホームページ「日本海溝・千島海溝沿いの後発地震への注意を促す情報発信に関する検討会報告書の公表等について」

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2211/08b/20221108.html>

内閣府ホームページ「北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページ」

[https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko\\_chishima/hokkaido/index1.html](https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/index1.html)